

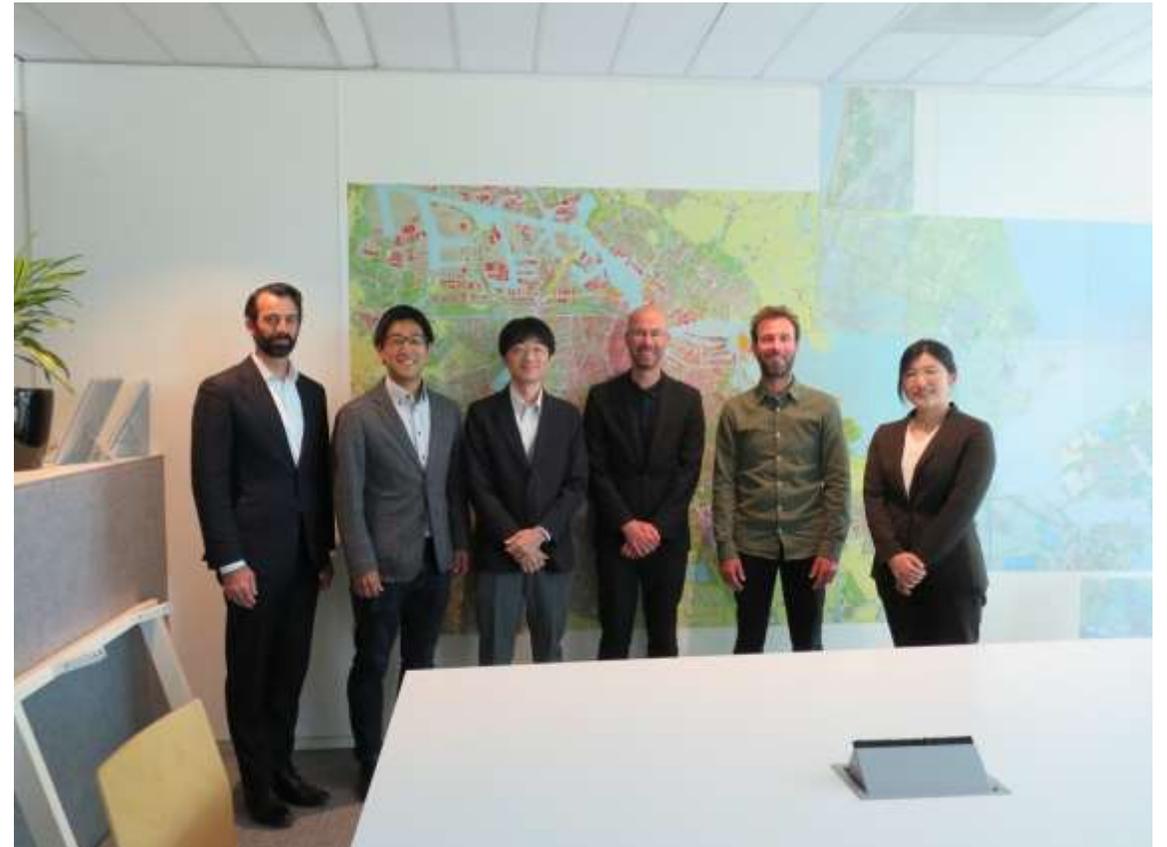
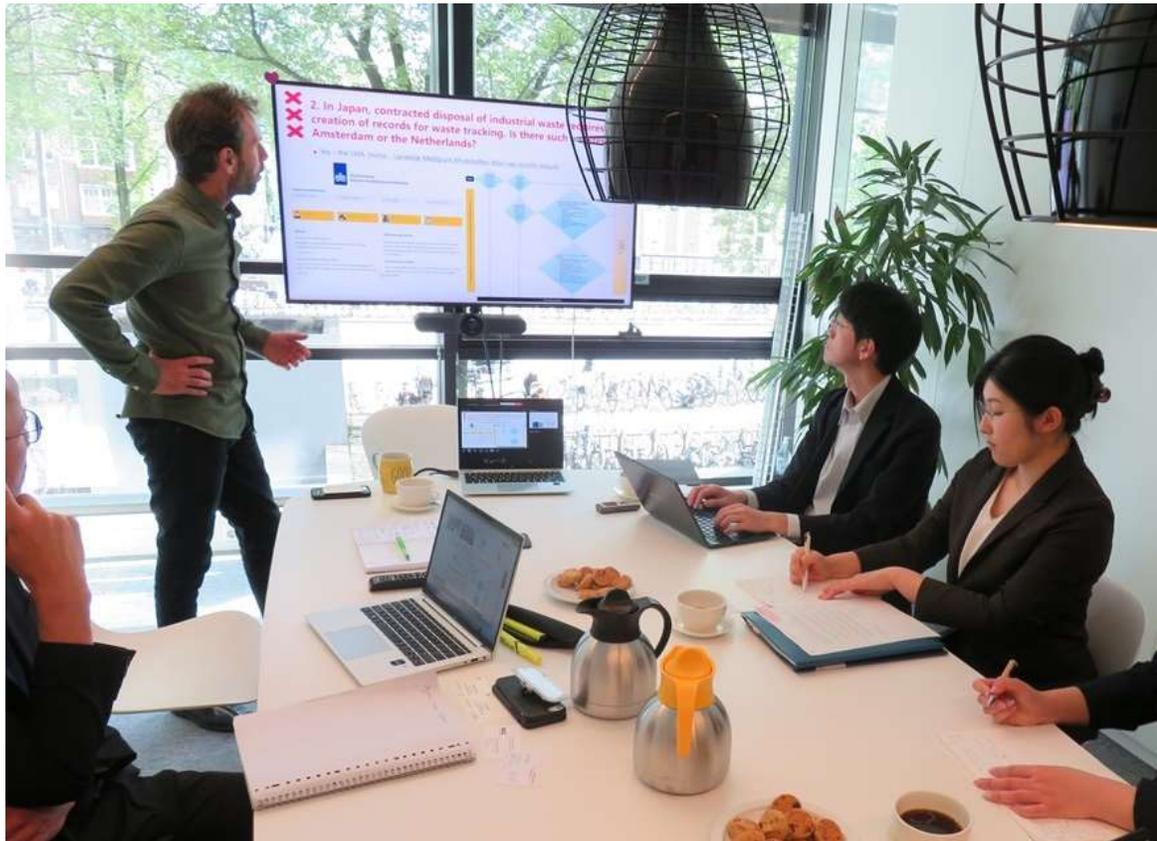
## 調査結果⑤

アムステルダム市(自治体)

# アムステルダム市(自治体)

対応者: **Mr. Marc Nellen(Advisor Circular Economy, Port and Industry)**、**Mr. Noam van der Hal(Projectleider Team Haven en Industrie Ruimte & Duurzaamheid)**、**Mr. Julien Rikkoert(Head of Japan Desk)**、**Mr. Marcel**、**Ms. Marlies** (一部Web会議参加)

場所: アムステルダム市内事務所



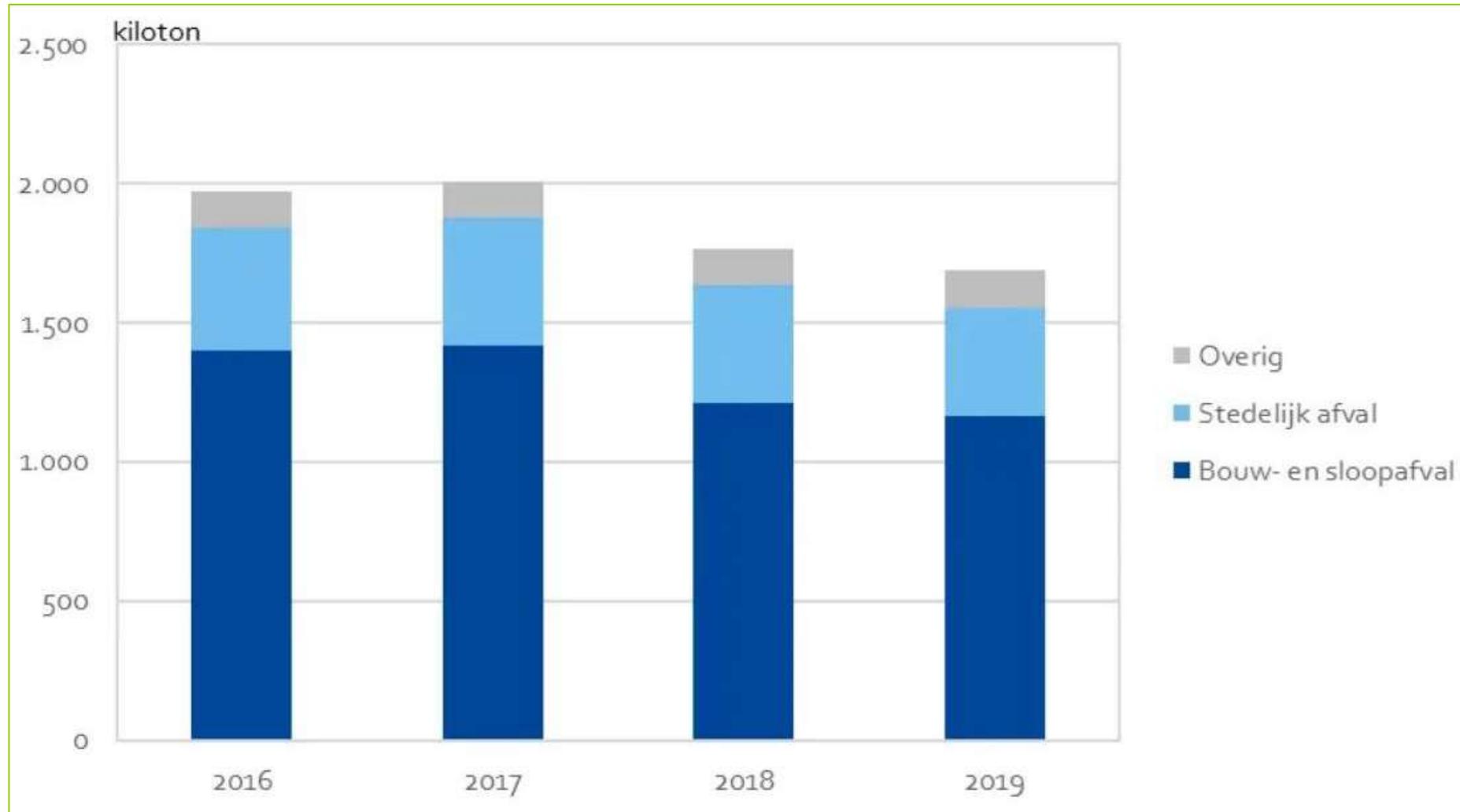
## 家庭ごみの回収

- 家庭ごみの分別ルールは、ガラス、紙、それ以外である。最近は、繊維類も分別対象にしている。
- 週2～3回家庭ごみが回収されているが、曜日、回収頻度は決まっていない。ごみ箱のごみや路上に置いてある家庭ごみ等が回収される。
- 廃棄物容器の体積をセンサーで計測し回収する方法を導入したが、回収ドライバーは既存のルートの方が効率的に回収できるので、センサーの計測の情報を頼らず、センター計測の回収方法はあまり機能していない。

## 事業系廃棄物の回収

- 事業系廃棄物は、基本的には排出事業者が民間の収集運搬業者を選定し回収の契約をする。
- 「9つの通り(9ストラーチェス)」の地域では、事業系廃棄物を回収するための協力体制がある。9つの通りの住民を対象にした試験的な取り組みが始まっており、市に電話すれば、Eバイクで作業員がごみを回収する。事業系廃棄物もこの仕組みで回収を依頼することが可能である。市内中心部は、道路が狭くごみ回収車両の進入が難しく、他のエリアとは違う事情があるため、このような対応を試行している。
- オランダでは建設廃棄物の排出量が最も多く、アムステルダム市も同じく建設廃棄物の排出量が最も多い。コンクリートやタイルの混合物は、市内ニューマルクト地域での道路工事により、近年、増加傾向である。

# 建設・解体廃棄物の発生状況



■ 建設・解体廃棄物 ■ 一般廃棄物 ■ その他

図 アムステルダム市で発生した廃棄物量(単位:kトン)、2016～2019年

## 廃棄物の処理方法

- 廃棄物は、焼却施設の工場（**AEB**）に搬入され、選別が行われる。紙とガラス以外の廃棄物を生ごみ（有機系廃棄物）、プラスチック、その他に選別し、紙、ガラス、プラスチックはリサイクル、それ以外は焼却処理をしている。リサイクル品は特定のリサイクル工場に運搬される。
- 焼却の廃熱を家庭へ供給したり、発電も行っている。
- ほとんどの廃棄物はオランダ国内で処理されるが、紙、ガラス、繊維くずは国外で処理、リサイクルされる場合がある。



## 建設・解体廃棄物の処理方法

- 建設・解体廃棄物は、主にコンクリート、木材、プラスチック、紙、石、金属で構成されている。
- 建設・解体廃棄物は処理業者(Afval.nl)によって分別され、90%が原料として再利用されている。
- アムステルダム市には、大型廃棄物(専用コンテナ)を無料で持ち込めるリサイクルステーションが6ヶ所あり、家庭のリフォームで発生する廃棄物を個人で持ち込むこともできる。
- アムステルダム市では、事業系廃棄物はほとんど分別されていない。リサイクルセンターに持ち込む前の分別を呼び掛けているが、あまり分別されていない。



## 廃棄物カード(waste disposal access card)

- カードをごみ箱にタッチすることで蓋が開き、廃棄物を投入できる仕組みになっている。一度に投入できる体積が決まっている。
- オランダの多くの都市でこのカードが使われているが、アムステルダム市では、数カ所で使用されているのみである。また、システム不良のため、廃棄物カードの仕組みは上手くいっていない。
- 場合によっては、法的権限のもとでカードが追跡されることもあるが、ごみの重量を量ることはほとんどない。
- カードは無料で利用できるが、一部の都市では市民が通常の使用量を超えてカードを使用すると、カード利用に料金が発生する場合がある。

## 廃棄物情報

- 一定量以上の有害物を排出する場合は、排出事業者が排出した廃棄物の量や性状等を国のシステム\*に報告する必要がある。

### \* LMA (National Monitoring Waste Database)

- 廃棄物量は、焼却施設やリサイクルステーションに入場する運搬車両、またはコンテナの重量を計測している。廃棄物の統計は、国のデータベース\*から確認できる。このように廃棄物の搬入時の重量で統計をとる方法は、欧州のスタンダードと考えられる。

### \* LMA National Data for Waste Collection

## 廃棄物統計

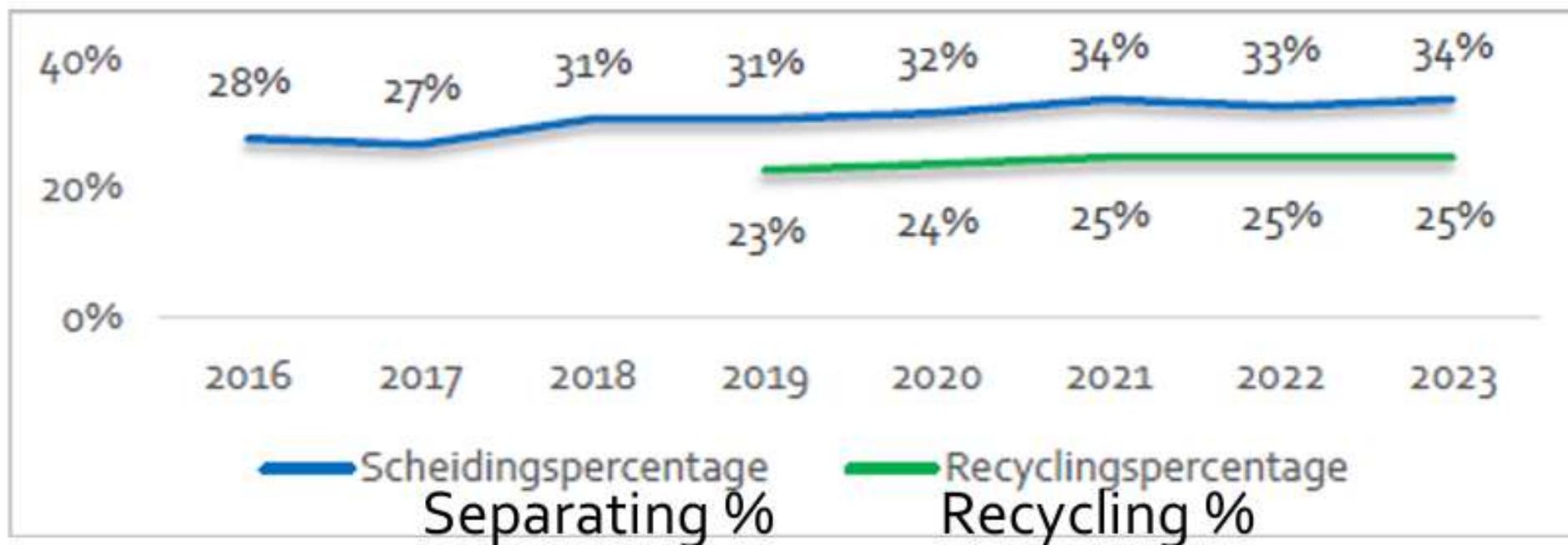


図 アムステルダム市の分別率とリサイクル率の推移

**2030年50%サーキュラー（使用される原材料の50%を削減）達成のためには、年間78,000トンのリサイクルする必要あり**

## サーキュラーエコノミーの取組み

- **GFT**(有機系廃棄物)は、ガーデニングの廃棄物も含まれる。これらはコンポスト化や発酵によるバイオガス発電等によりリサイクルを推進する。
- 市民が新聞を読まなくなった、印刷物が減少した等の理由で、紙類の廃棄物量が減少している。
- 分別してごみ箱に捨てることをプロモーションした。SNS、教育プログラム等を活用し周知している。
- 繊維ごみのごみ箱の位置もインターネットでわかるようになっている。

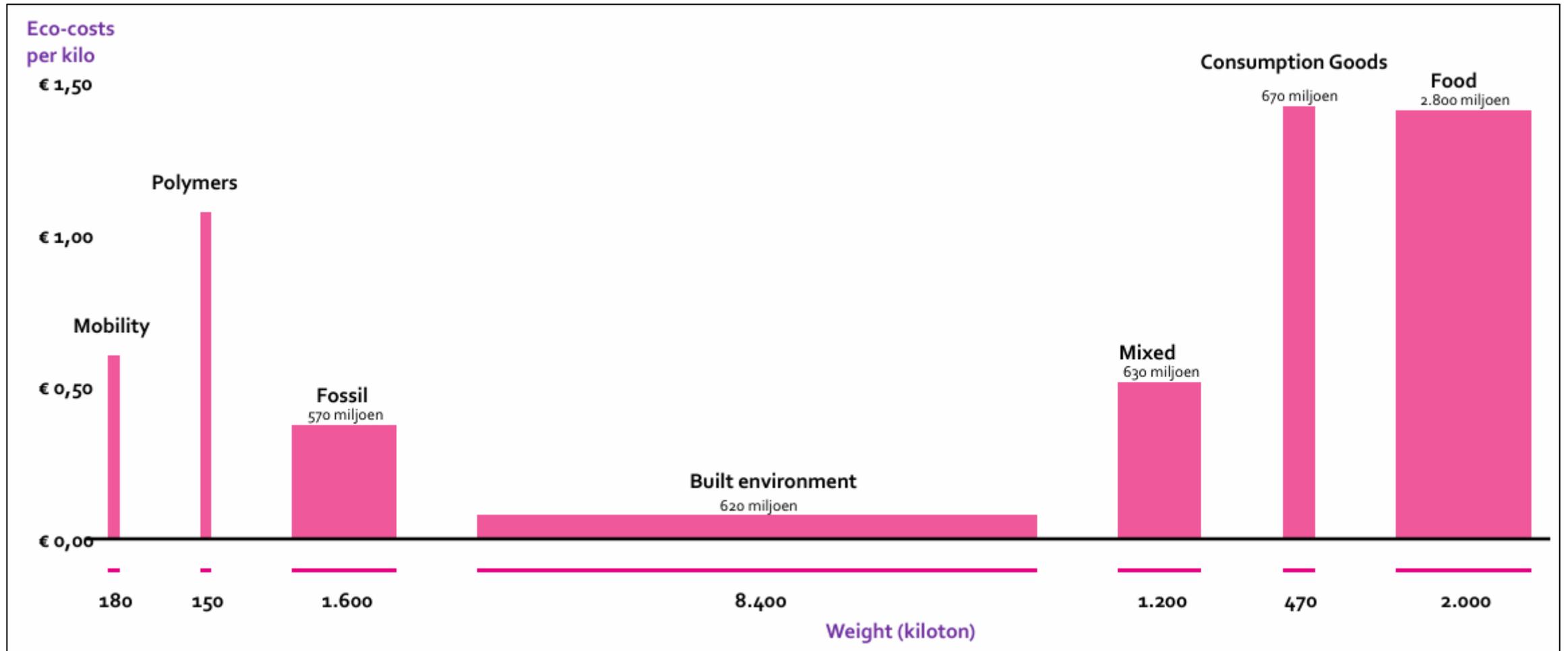


Investment allocated - €17.5 million

<https://ideasforgood.jp/2024/01/26/>

[circular-amsterdam-2023-2026/](https://ideasforgood.jp/2024/01/26/circular-amsterdam-2023-2026/)

# サーキュラーエコノミーの取組み



**CO<sub>2</sub>排出量や水質汚染等の影響を環境コストとして算出し、建築環境、消費材、食品分野で重点的に対策を講じることとしている。**

## サーキュラーエコノミーの取組みの課題

- 時間、お金、能力：必要なことを先延ばしにして、予算内でできることをやっていると目標を達成できない。
- 行動変容：考え方を変えるだけでは行動は変わらない。
- スペース不足：利用可能な物理的スペースに循環経済のための場所を作る。
- システムの変化：小規模なパイロット事業の成功から、広範な実践へ移行する。
- ナッジングをやめる：ソフトな対策ではもはや不十分であり、目標達成のためにはより強力な法制度が必要である。